

# 建築鉄骨市場 ①

## 2014年の展望



川田 忠裕氏  
(鉄骨建設業協会会長)

### 需要増、工程管理の調整厳しく

市場環境の変調が本格的に動き、会員 万ト近くとなり、年率 けている案件も多く、  
を指摘する声も根強 多くの保有するSグ で550万ト規模と試 適正な採算の確保は道 の制作を全国鉄構工業  
い1年だった。 レードの鉄骨製作工場 算できる。各社の操業 半ばにとどまる。鉄建 協会を進めている」  
「大型の物流・商業 施設が堅調な上、都市 率に軒並み100%を 協ベースの総受注量が 前年度の32万トから40 半面、現実的に対応 できるキャパシティ  
部を中心に大規模な再 超え、超高層の部材に 使つビルドボックスを 万トに伸び、加工量は 必要が回復する かつ考えている」  
開発プロジェクト案件 骨需要が推計で280 万トに伸び、加工量は できるキャパシティ (中野 裕介)

はじめ工程管理の 29万トから36万ト程度 も限られる。  
調整が厳しくなっ に拡大する。実際、他 「東北の復興事業が  
ている」 の建設業種と同様に溶 本格化するほか、五輪  
の程度の影響が 問われる技能者が不足 の開催を機に首都圏以  
出ているのか。 しており、現場にかか 港から外国人を運ぶた  
「受注単価は鋼 る諸コストも膨らんで めの整備も計画が上  
材や輸送、加工の いる。若手の教育や学 るだろう。操業の平準  
費用が上がるほ 生の採用に役立てる狙 化はもとより、工程の  
が、期を越え手掛 いで鉄骨の魅力や特徴 遅延に対応しないとい  
て取り組んでいかな けない場面が出てくる  
可能性も否めない。そ れだけに設計事務所や 建設会社と一体になっ  
ればならない。その一 環境で、設計事務所と合 同で鋼構造についての 勉強会を実施できない

鉄鋼新聞  
1/8.9頁

# 建築鉄骨市場 ②

## 2014年の展望



米森 昭夫氏  
(全国鉄構工業協会会長)

### 市場好転、人材育成の原資確保

環境が好転してき かなければならぬ  
た今だからこそ、 情報が十分に伝わ 活用するのも一手だ  
人材育成に充てる らず、互いの状況を知 らなければ疑心暗鬼に が、将来の担い手であ  
原資を確保でき、 陥り、無理な受注活動 る後継経営者はもちろ  
先を見据えた本格 的取り組みがで の連鎖を招く」  
「仕事の有無にかか 育ちにくくなる。これ  
「市場環境が わらず工場の稼働が安 まで培った技術力の低  
いい時に悪くな 定すると鉄骨価格の適 下を避けるためにも、  
った時の手を打 正化にもつながる。協 われわれ全構協が音頭  
きる」 をとって後世に継承し  
ていく道筋を付けてい  
かなければならない」  
「構成員の数も漸減 傾向から横ばいに転じ  
ており、足元の需要規  
模をベースに事業継続 が可能な収益を確保で  
きる価格形成に努めて  
いくことになるだろ  
う」

近年にない繁忙  
感で2014年が明  
けた。

「昨年1年前のこ  
の時期に予想していた  
より前倒しで鉄骨需要  
が動きだした印象が強  
い。工場の規模を問わ  
る」 「この数年で人員削  
ぎ加工能力の上限に近  
い。高い操業水準にあり  
減や設備集約した会社  
は少ななくな、他の建  
設関連業界と同様に技  
術者が足りない。市場  
きる仕組みを構築して

「好不況の波は必ず  
訪れる。常に情報を共  
有し、操業を平準化で  
ついでいきたい」  
「設備、人材の需  
給均衡が先行きの市  
場を占う。」

「好不況の波は必ず  
訪れる。常に情報を共  
有し、操業を平準化で  
ついでいきたい」  
「設備、人材の需  
給均衡が先行きの市  
場を占う。」